

## 第2学年国語科学習指導案

児童 2組 男子11名 女子13名 計24名  
指導者 觸 澤 美香子

- 1 単元名 友だちに分かるように話そう (光村図書 2年上 たんぼぼ)  
教材名 あったらしいな、こんなもの

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、教材「ふきのとう」で、身の回りから見つけた春について友達に分かるように話すことを学習した。教材「とも子さんはどこかな」では、迷子を捜すための大事な特徴を選び順序よく話すこと、迷子の特徴を聞き落とさないように注意して聞くこと、必要に応じてメモすることを学習した。国語の学習以外にも、輪番制でスピーチを行い、テーマに沿って話題を選んで話したり、話し手に対して質問したり感想を伝えたりしながら聞く活動を行っている。

この単元の目標に関わる「話す順序を考えながら聞き手に分かるように話すこと・友だちと話し合っ

て考えを深めること」についての経験や意識について事前調査したところ、結果は次の通りであった。

質問項目	はい	どちらかとい うとはい	どちらかとい うといいえ	いいえ
① 伝えたいことを落とさず、くわしく話していますか?	50%	34%	8%	8%
② 聞く人に分かるように順番を考えて話していますか。	63%	17%	17%	3%
③ 聞く人に分かるように聞こえる声の大きさと、ゆっくり、はっきり話していますか。	33%	46%	13%	8%
④ よくわかったり、なるほどと思うところでは、うなずきながら聞いていますか。	42%	42%	8%	8%
⑤ 相手の話の内容に質問や感想を言おうと考えながら、聞いていますか。	26%	33%	33%	8%
⑥ 友だちといろいろな話題で、会話のやりとりができますか。	46%	29%	21%	4%

調査の結果から、「伝えたいことを落とさないように、話す順序を考えながら話そうとする」ことや「話の内容がよく分かった時は、うなずきながら聞こうとすること」を意識している子が8割程度いることが分かる。

実際は、「いつ、どこで、なにが、どうした」といったパターンの順序では話せても、自分で分かりやすい順序を構成して話す経験はまだ浅く十分ではない。しかし、話し手になったり聞き手になったりするスピーチ活動を通して分かりやすい話し方を実感し、スピーチをするときに生かそうとする意欲が出てきている。また、聞くことに関しても、姿勢や態度に気をつけることからステップアップし、話の内容に興味を持って聞き、質問や感想を言える子が増えてきている。まだうなずいたり相槌を打ったりできる子は多くないが、もっと良い聞き方ができるようになりたいという意欲も感じられる。

子ども達の興味・意欲をさらに引き出しながら、「友だちの考えを分かりやすく具体的にするために、質問したり感想を言ったり意見を伝えたりしながら話し合うこと」「分かりやすく伝えるために話す順序を考えること」の力をつけ、学習の中で互いに考えを練り合い深めたり高めたりする力、積極的に考えそれを友達に伝える力、また、話したり・聞いたり、友達とコミュニケーションすることを楽しもうとする姿勢を身につけさせていきたいと考える。

## (2) 教材について

本教材は、これまで自分一人で考えていたスピーチ内容について、友達と話し合っただけの活動が盛り込まれた初めての教材である。まず友達と話し合うことで自分の考えをよりくわしく明らかにし、その後、話し合った内容を分かりやすく伝えるための順序や話し方を考え、話し方を練習し、発表会を行うという構成になっている。

1・2年の「話すこと・聞くこと」の目標は、「相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」である。

本単元のねらいは、あったらいいものについて二人組で話し合っただけで詳しくし、話し方に注意して発表することである。

また、主たる指導事項は、「家族や身の回り取材し、発表したいものを選ぶこと」(A(1)ア)「どんなものが『あったらいい』か、組になった人と話し合っただけで考えを深めること」(A(1)オ)「『あったらいいな』と思うものについて、それがどんなものか、理由は何かなど、話す順序を考えながら、聞き手に分かるように話すこと」(A(1)イ)「はっきりと話すこと 丁寧な言葉遣いで発表すること」(A(1)ウ)「発表者があったらいいなと考えているものの名前や理由を落とさずに聞き、分からないことは質問すること」(A(1)エ)である。

二人組での話し合いは、児童の夢を膨らませると同時に、話す内容が自分本位にならず、聞き手をより意識したものにするができる。また、話し合うことがお互いの考えを深めたり、高めたりする、身近で有効な手段であることを意識づけることにも適した教材である。話し合うときの聞き方答え方や、話し合った結果の生かし方、相手を意識した分かりやすい発表の仕方を身につけさせ、学習や生活の様々な場面で活用していく力が育つ教材であると考えられる。

## (3) 指導に当たって

つかむ段階では、教材文のドラえもんを参考に、「あったらいいな」と思うものの発明・創造に興味を持たせたい。一昔前は実現不可能と思われていたことが現実になっていることなどから、発明の現実味を持たせ、意欲づけを図る。また、家族の日常の困り感取材し、そこからより身近で具体的な発想を揺り起こす。また、発表会を発明品の学級コンクールにすることを伝え、意欲化を図る。

ふかめる段階の前段では、発明品をより具体的にするための話し合いの仕方を学びながら、話し合いの目的意識や、話すときの相手意識を育てたい。発表の際に聞き手により分かりやすくするという目的を明確にし、そのための手順をつかませる。二人組で、話し手・聞き手を交代しながら、発明品を具体的にすることから逸れないように質問や意見をし合うことを練習するとともに、発表のための情報を集める。話し手の視点だけでなく聞き手の視点からも話の内容を集めることで、聞く人の興味や楽しみが増すことを感じ取らせ、相手意識を育てたい。

後段では、話し合ったことをもとに、発表の内容をまとめたり、絵に描いたりして発表の準備を行う。「どんなこと」を「どんな順序で」話したら聞き手に分かりやすいかを、教材文を参考に考えたり、悪い例と比べたりしながら気付かせる。まとめる際は、箇条書きの仕方を指導し、今後の学習に活用させたい。発表原稿ではなくメモを見て話すことを訓練する。発表練習は小グループで行い、複数の耳で聞いて相互に話し方の改善点についてのアドバイスをさせる。

まとめる段階では、準備・練習した「あったらいいな」と思う発明品をクラス全体の前で発表する。話し手・聞き手・司会役など役割分担や順番を決め、いろいろな立場で発表会をする経験をさせる。また、発明品に対する感想カードの交流を行い、お互いの考えを認め合う場とする。

さらに、この単元では、話し合いは二人組、発表練習は小グループ、発表会や感想交流は学級全体という学習形態で行い、互いに相手の発想や話し方に対して、認めたり、意見したり、相互に評価したりしながら学習し、よりよい発表会になることを目指す。この単元で身に付けたい力を名人カードで確認しながら、意識化・意欲化を図っていききたい。

(4) 家庭学習と授業のつながりについて

つかむ	・音読練習。 ・「あったらいいもの」についての取材。 ・新出漢字練習。
ふかめる	・学習感想。 ・発表原稿の準備。 ・発表練習 ・漢字練習。
まとめる	・感想カードの清書 ・学習感想。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

○あったらいいものについて、詳しくするために友達とやりとりしたり、相手に分かるように話したりしようとしている。

(2) 話すこと・聞くこと

○家族や身の回り取材し、発表したいものを選ぶことができる。

◎あったらいいなと思うものについて、それがどんなものか、理由は何かなど、話す順序を考えながら聞き手に分かるように話すことができる。

○はっきりとした発音で話すことができる。

○丁寧な言葉遣いで発表することができる。

○発表者があったらいいなと考えているものの名前や理由を落とさずに聞き、分からないことは質問することができる。

◎どんなものがあったらいいか、組になった人と話し合っって考えを深めることができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力
・あったらいいものについて、相手に分かるように話したり、詳しくするために友だちとやりとりしたりしようとしている。	・家族や身の回り取材し、発表したいものを選んでいく。 ・あったらいいなと思うものについて、それがどんなものか、理由は何かなど、話す順序を考えながら、聞き手に分かるように話している。 ・はっきりとした発音で話している。 ・丁寧な言葉遣いで発表している。 ・発表者があったらいいなと考えているものの名前や理由を落とさずに聞き、分からないことは質問することができる。 ・どんなものがあったらいいか、組になった人と話し合っって考えを深めている。

5 学習指導計画（15時間）

は、かかわり合いの場

過程	時間	学 習 活 動	教師のはたらきかけ	評価規準(方法)
つ か む	1	ドラえもんを参考にあったらいいと思 うものを想像し、たくさん考え出す。	・発明・創造に対する興味づけを図る。 ・家族や身の回りの生活に目を向けさせる。	ア興味を持って取り組み、想像力豊 かに発想しようとしている。 (ワークシート・観察)
	2			
	3	どんな発表会をするのか知り、学習の 見通しとめあてを持つ。	・発表会をコンクール形式で行うことを伝え、目 当てと意欲を持たせる。	ア自分の目当てを決めている。 (ワークシート・観察)
ふ か め る	4	考えたものの中から、発表したいもの を選ぶ。	・実生活で役に立つもの、友達を驚かせたり感心 させたりするものという視点で選ばせる。	イ選ぶ観点を意識して、発表するも のを選んでいる。(観察)
	5	話し合いの目的、話し合いの仕方を知 る。	・質問や意見、できればアドバイスをすることな ど、付録 CD を聞かせ対話の仕方を具体的にイ メージさせる。	イ対話の仕方を具体的にイメージ し、やってみようとしている。 (観察)
	6 (2 組 本 時)	二人組であつたらいいものについて、 話し合う。  二人組で話し手・聞き手を交代しな がら行う。相手を変えて2回行い、 発明品をより具体的に作る。	・ワークシートに、話し合う中で詳しくなったこ とを書き足すようにさせる。  目的に沿って、話し手の思いを受け入れるこ と、聞き手の興味を知ることを意識させる。	イ相手の話を受けて、うなずいたり、 質問したりしながら聞いている。 ア発明品をよりよくしようと協力作 って話し合おうとしている。 (ワークシート・自己評価)
	7	発表の準備と練習をする。話す内容を カードに書き、順序を考えたり絵に表 したりする。	・箇条書きの書き方を指導する。 ・教科書の例文を参考に、分かりやすい順序を考 えさせる。	イ発明品について友達との話し合い をもとに、事柄ごとにまとめている。 (発表メモ)
	8	前にやりとりした2人組で、絵やカ ードを見せ合い内容を確認し合う。	話し合いをした時のやりとりやアドバイスが 盛り込まれているか、確かめ合わせる。	イ分かりやすい順序について理解 し、順序よく構成している。
	9	聞く人によく分かる話し方を考え、各 自練習する。	・分かりやすい話し方を確認する。 ・発表原稿が必要な児童に配慮する。	イ分かりやすい話し方が分かり、注 意して練習している。(観察)
	10	発表練習をする。 小グループで行い、複数の評価を聞 くことで修正点をはっきり意識す る。	・互いの発表の仕方について評価し合い、良くす るにはどうしたらよいか確かめさせる。 小グループで、聞き手を複数にすることで、評 価に客観性を持たせる。	イ聞き手を意識したよい話し方に気 をつけて練習している。 イ話し手に、直した方が良い点を見 つけ教えている。(自己・相互評価)
11	発表の準備をする。発表者・司会者・ 聞く人等役割分担する。	・発表の仕方、質疑応答や感想交流の仕方を意識 させる。	ア自分の役割を確認し、よりよい発 表会にしようとしている。(観察)	
ま と め る	12 (1 組 本 時)	発表会（1回目）をする。 学級全体で行う。全員に聞こえる声、 大勢の前で話すときの話し方の必要 感を持つ。	・進行表や発表順などを掲示しておく。 話し方や質疑応答の仕方について、教師の評価 を伝え、よりよい発表の仕方を意識づける。	イ聞き手に分かるように、まとまり ごとに順序よく話している。 イうなずいたり相槌を打ったり、質 問や感想を言ったりしながら聞い ている。 (感想カード・ 自己評価・相互評価)
	13	発表会（2回目）をする。	・単元のまとめであるため、名人カードを意識さ せ、自己評価・相互評価の視点を確認する。 ・話し方・聞き方・質疑応答・感想など、良い点 を褒める。	
	14	発表会（3回目）をする。		
	15	感想カードを贈り合い、学習のまとめ をする。 個々に、用意したカードを贈り合 い、感想交流を行い、学習を振り返 る。	・単元全体を振り返り、名人カードを記入させる。 今後への意欲化を図る。 互いの良さを認め合い、今後への意欲化を図 る。	イ友達の良い点を見つけ、伝えてい る。 ア自分の学習の目当てを振り返り、 伸びた点を見つけている。 (感想カード・自己評価)

6 本時の指導 (6 / 15)

(1) ねらい

- ・二人組であったらいいものについて話し合い、くわしくすることができる。

(2) 本時の展開

                    は、かかわり合いの場

過程	学 習 活 動	教師の働きかけ
つ か む  5 分	<p>1 前時の学習を想起する。 じょうずな話し合い方の注意を確かめる。</p> <p>2 話し合いの目的を明確にし、本時の課題を確かめる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「あったらいいな」と思うものについて二人で話し合い、くわしくしよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の考えを認め良さを褒めること、積極的に質問すること、意見を伝えることが大切であることを押さえる。</li> <li>・名人カードの「話し合い」の項目に合格できるよう、励まし意識させる。</li> </ul>
か か わ り 合 う  35 分	<p>3 学習課題を解決する。</p> <p>(1) どうなれば詳しくなるのかを知る。 ・形状、使い方、目的等を明確にすること。 ・そのために、質問や意見を3回以上すること。</p> <p>(2) 話し合いの目当てを決める。 ・学習シートの自分の目当てを記入する。</p> <p>(3) モデルを見て聞いて、話し合い方の具体的なイメージをつかむ。 ・どんな質問や意見をしていたか探す。</p> <p>(4) 二人組であったらいいものについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習形態は二人組。話し合いの手順に沿って話し合い、発明品を具体的に作る。互いに立場を交替して話し合う。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の発明に、いくつ質問や意見ができたか、指折り数えながら話し合う。</li> <li>・相手を替えて2回行い、さらに発明品を具体的に作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問の際のヒントとなるよう、質問例を提示する。</li> <li>・「詳しくする」という目的から離れないよう、質問や意見を中心にした目当てを持たせる。</li> <li>・新しい思いつきや聞き手からの意見はワークシートに絵や文でメモしておくことを伝える。</li> <li>・お互いの話を受け入れながら話し合うことを最重点に、モデルを示す。</li> <li>・相槌や褒める言葉にも注目させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">全員が一斉に話し手・聞き手という役割を持ち、話し合いを経験させるため、二人組で行う。小さな形態で行うことで、自由に打ち解けた雰囲気でするようになりたい。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価規準</p> <p>A:相手の話をよく聞き、相槌を打ったりほめたりしながら、3つ以上の質問や意見のやりとりをして話し合っている。</p> <p>B:相手の話をよく聞き、3つ以上の質問や意見のやりとりをして話し合っている。</p> <p>(C 児への手立て)</p> <p>具体的な質問例のヒントカードを持たせ、話し合いへの不安感を軽減する。</p> </div>
み と め 合 う  5 分	<p>4 本時の学習をまとめる。</p> <p>(1) 自分の目当てが守れたか、話し合いを振り返り自己評価を行う。</p> <p>(2) 学習感想をまとめる。</p> <p>5 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをワークシートに記入させる。</li> <li>・本時の学習を生かして、発表の準備をすることを知らせる。</li> </ul>

